

各種団体の皆様へ

堺市医師会内科医会では、8月に下記講演会を開催いたします。
多くの方々にお聞きいただきたいと思いますので下記のとおりお知らせいたします。

堺市医師会内科医会理事 太田 俊輔

堺市医師会内科医会 学術講演会のご案内

日 時： 令和5年8月22（火）午後2時～
演 題：「 これからの現場に求められる ACP
～内科外来での実践から見えてくること～ 」
開催方法： WEB 配信
講 師： 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 藤澤 智巳 先生
司 会： 堺市医師会内科医会理事 太田 俊輔

（講演要旨）

本邦においては未曾有の超高齢化社会を背景に死因として癌・心疾患だけでなく老衰・誤嚥性肺炎の増加、さらに限られた医療資源の有効活用が必須な医療環境を考慮すると ACP が重要なケースは今後ますます増加が見込まれます。人生の終着時点で“何を大切に”して“どのような ending を望むのか？”、そのケアについてあらかじめ考えておく（Advanced Care Planning）ことには本気で取り組むべき時代となりました。

では、外来診療（看護・指導・介護）で実践しうる ACP とはいかなるものであろうか？理想的な前提条件を挙げるとすると、患者側には①生命に危機的な状況を想像する力、②その時にどうしたいか考え・決める能力が、一方の医療者側には①個々の患者の病態を把握し将来起こりうる疾患を推察する臨床力に加え、②その人の人生観・大切にしていることを理解する姿勢・洞察力、③さらにそれを元に適切な ACP につなげていく力量が挙げられます。しかし、これらすべての条件がそろうとは限らず、性急すぎる ACP は却って医療者・患者関係に negative な影響を残すことにも留意すべきです。実臨床で ACP を進めていくためには、日頃からそうしたことを語れる関係性と、ACP を開始するタイミングを見計らうことに加え、医療者として関わり方の中で健康観・死生観に関連する言葉・態度をセンスするスキルと、“そうした場面になったらどうするか？”を考えるプロセスの適切な支援が特に重要です。

当院では糖尿病透析予防外来で一部の高齢期の方に ACP の実践にむけたアプローチを行ってきましたが、特に男女間で大きく異なることが明らかとなりました。本講演では ACP の実践にむけて、その経験から見えてきた適切なアプローチについて考察し、これからの時代に内科医・医療従事者に期待されている役割、また実践のためのポイントについてもふれてみたいと考えています。

ご参加を希望される皆様は、事前に申込が必要となります。下記QRコード等より事前申し込みをお願いいたします。

◆令和5年8月22日（火）堺市医師会内科医会学術講演会（WEB配信事前登録サイト）

【事前登録用 URL】

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_kMPGmgHYS9iCWwKXW_BdtA

主 催： 堺市医師会内科医会
共 催： 一般社団法人 大阪府内科医会

